

# 九州・沖縄・山口の伝統文化を知ろう！

VOL. 2

## 今回のテーマ…『陶磁器』

九州・沖縄では、歴史や風習に基づく特色豊かな『陶磁器』がたくさんあります。今回は、各県で行われている主な『陶磁器』についてご案内します。イベント情報も掲載していますので、是非、お気に入りの『陶磁器』を探しにでかけてみませんか。

山口県 萩焼



福岡県 小石原焼



佐賀県 有田焼



長崎県 三川内焼



熊本県 小代焼



大分県 小鹿田焼



宮崎県 小松原焼



鹿児島県 薩摩焼



沖縄県 壺屋焼



## 文化力プロジェクトとは？

文化庁では各地域の「文化力」（文化の持つ、人々に元気を与え、地域社会を活性化させて、魅力ある社会づくりを推進する力）を盛り上げ、社会全体を元気にしていくためのプロジェクトを各地域の関係者として協働して推進しています。九州・沖縄・山口においても、「九州・沖縄から文化力」と題して、地域における文化活動の充実や九州・沖縄・山口から文化を発信し、社会を元気にすることを目的とした活動を行っています。

# C O N T E N T

<b>山口県</b>		<b>宮崎県</b>	
萩焼	1P	小松原焼	16P
<b>福岡県</b>		一ツ葉焼窯元	17P
上野焼	2P	照葉窯	18P
小石原焼	3P	三股焼紫麓窯	19P
<b>佐賀県</b>		<b>鹿児島県</b>	
唐津焼	4P	薩摩焼	20P
伊万里・鍋島焼	5P	<b>沖縄県</b>	
武雄焼	6P	壺屋焼	21P
肥前吉田焼	7P		
有田焼	8P		
白石焼	9P		
<b>長崎県</b>			
波佐見焼	10P		
三川内焼	11P		
<b>熊本県</b>			
天草陶磁器	12P		
小代焼	13P		
高田焼	14P		
<b>大分県</b>			
小鹿田焼	15P		



※掲載されているイベントスケジュールは、諸事情により日時等が変更される場合がありますので、お問合せ先までご確認ください。

《山口県》

はぎやき  
【萩焼】



三輪壽雪（十一代休雪、1910-2012）  
鬼萩窯変割高台茶碗  
2006年  
高 11.2cm、口径 16.2×15.3cm  
山口県立萩美術館・浦上記念館蔵

【陶磁器の魅力はこんなところ！】

「ざんぐり」とした美感を特長とする萩焼の作陶技術は、桃山時代以来 400 年余りの歴史があります。朝鮮半島由来のこの技術は、毛利家中（萩藩）の御用窯を中心に継承されてきましたが、近代以降は伝統の素地土と釉薬を受け継ぎながら、その特徴を自己表現に活かす個人作家の造形活動として展開されています。

三輪壽雪（十一代休雪、1910～2012）は重要無形文化財「萩焼」の保持者（人間国宝）として、伝統の素材と技術を伝承しつつ、現代の感覚に重きを置いた創造的な茶陶づくりで、高い芸術性で魅せる独自の作風を確立しました。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
「萩焼 三輪壽雪の茶陶」展	令和2年 1月21日～ 4月12日	山口県立萩美術館・浦上記念館 (萩市平安古町 586-1)	電話 0838-24-2400

## 《福岡県》

### あがのやき 【上野焼】



#### 【陶磁器の魅力はこんなところ！】

1602年、豊前小倉藩主・細川忠興が李朝陶工の尊楷を招き、福智山の麓・上野の地に開窯したのが始まりとされます。細川家、小笠原家にわたる藩主の御用窯として珍重された国焼茶陶で、江戸時代には遠州七窯の一つに選ばれるほど茶人に好まれていました。「緑青流し」に代表される<sup>ゆうやく</sup>釉薬の豊かな色づかいと「薄づくり」による軽さが独特の深みを生んでいます。現在も、約400年の歴史に裏打ちされた品の良さ、格調高さを感じさせる器が生み出されています。

#### ☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
上野焼春の陶器まつり	令和2年4月24日～26日	上野焼陶芸館（福智町上野2811番地）及び上野焼窯元	上野焼協同組合 0947-28-5864
上野焼秋の窯開き	未定（令和2年10月に3日間開催）	上野焼陶芸館（福智町上野2811番地）及び上野焼窯元	上野焼協同組合 0947-28-5864
バレンタイン猪口展	アクロス：未定（令和3年2月） 陶芸館：令和3年2月1日～14日	アクロス福岡（福岡市天神1-1-1）及び上野焼陶芸館	上野焼協同組合 0947-28-5864

◀福岡県▶

こいしわらやき  
【小石原焼】



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

実用的で質実剛健な「用の美」の代表として、民芸運動の始祖、柳宗悦が高く評価したことで全国に知られるようになりました。小石原焼の大きな特徴は、器をろくろで回しながら刃先や刷毛などを使い規則的に入れる模様です。「飛び匏（とびかんな）」や「刷毛目（はけめ）」と呼ばれる技法により、整然としながらも温かみのある柄が生まれます。素朴なデザインと風合いで、日本全国で愛され続けています。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
春の民陶むら祭	令和2年5月 3日～5日	小石原焼伝統産業会館 (東峰村小石原 730-9)	民陶むら祭運営委員会 (0946-74-2121)
秋の民陶むら祭	未定 ※令和2年 10月の体育 の日を最終日 とする3日間	小石原焼伝統産業会館 (東峰村小石原 730-9)	民陶むら祭運営委員会 (0946-74-2121)

《佐賀県》

からつやき  
【唐津焼】



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

古くから茶の世界では、「一井戸・二楽・三唐津」という茶碗の格付けがあり、茶の湯の名品として多くの茶人に愛されました。また「備前の徳利、唐津のぐい呑み」と言われるように酒器としての評価も高く、飽きのこない一品に出会う楽しみもあります。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
唐津やきもんまつり	毎年 4 月～ 5 月	唐津市中心市街地	唐津やきもん祭り実行委員会 0955-74-3355
伝統工芸唐津焼展	毎年 4 月～ 5 月・9 月	唐津市ふるさと会館 アルピノ	唐津焼協同組合 0955-73-4888
唐津窯元ツアーリズム	毎年 11 月	唐津 各窯元	唐津観光協会 0955-74-3355

《佐賀県》

い ま り な べ し ま や き  
【伊万里・鍋島焼】



大川内山

【陶磁器の魅力はこんなところ！】

伊万里大川内山では、江戸時代、佐賀藩の御用窯が置かれ、将軍家などへ献上する特別にあしらわれた焼き物「鍋島」が焼かれていました。

現在の窯元は、高度な技術を受け継ぎながらも新たな技術を取り入れるなどし、「伊万里・鍋島焼」として約350年の歴史と伝統を引き継いでいます。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
春の窯元市	毎年4月	大川内山	伊万里鍋島焼協同組合 0955-23-7293
伊万里やきものまつり	毎年4月29日～5月5日	大川内山	伊万里鍋島焼協同組合 0955-23-7293
風鈴祭り	毎年6月～8月	大川内山	伊万里鍋島焼協同組合 0955-23-7293
鍋島藩窯秋祭り	毎年11月	大川内山	伊万里鍋島焼協同組合 0955-23-7293

《佐賀県》

たけおやき  
【武雄焼】



飛龍窯

【陶磁器の魅力はこんなところ！】

武雄焼(古武雄)は、1590年頃から、鉄絵・<sup>りょくゆう</sup>緑釉・<sup>てつゆう</sup>鉄釉・<sup>はけめ</sup>刷毛目・叩きの技法で、大皿、瓶、壺、茶碗、甕など多様な焼き物が作られ、日本各地だけでなく東南アジアにも輸出されていました。現在は、およそ90軒もの窯元がそれぞれ、この伝統的な技法を生かしながら、個性を尊重し、多様な作品を生み出しています。また、全長23メートル、世界一の容積を誇る登り窯である飛龍窯が有名です。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
武雄の紅葉と窯元巡り	毎年 10月～11月	慶洲園・飛龍窯・武雄市文化会館 等	武雄市観光協会 0954-23-7766
TAKEO・世界一飛龍窯灯ろう祭り	毎年 2月	竹古場キルンの森公園・飛龍窯	TAKEO・世界一飛龍窯祭り実行委員会 0954-23-9237



《佐賀県》

ひぜんよしだやき  
【肥前吉田焼】



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

肥前吉田焼は天正5年（1577年）頃に始まり、その後、寛永年間（1624～44年）、蓮池藩主、鍋島直澄が朝鮮陶工を吉田山に招き、磁器を焼かせた頃から本格的に製造が始まったといわれています。現在も、スタイルにとらわれることなく、技術向上に励んでいます。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
吉田おやまさ ん陶器まつり	毎年4月	肥前吉田焼窯元会館 及び各窯元	肥前吉田焼協同組合 0955-43-9411
肥前吉田焼辰 祭り	毎年11月	肥前吉田焼窯元会館	肥前吉田焼協同組合 0955-43-9411
えくぼとほく ろ	通年	肥前吉田焼窯元会館 及び各窯元	肥前吉田焼協同組合 0955-43-9411

《佐賀県》

ありたやき  
【有田焼】



有田内山伝統的建造物群保存地区

【陶磁器の魅力はこんなところ！】

17世紀初頭、朝鮮人陶工・初代金ヶ江三兵衛（通称：李参平）らによって有田町泉山で磁器の原料となる陶石が発見され日本初の本格的な磁器の生産が始まりました。それから400年、食器から美術工芸品まで幅広い焼き物の生産を続けています。

磁器生産の中心地「内山」地区は、白漆喰しろしっくいの伝統的な町屋や洋館など江戸時代から昭和初期の建造物が連なり、「日本の20世紀遺産20選」に選定されています。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
有田陶器市	毎年4月29日～5月5日	有田内山地区	有田商工会議所 0955-42-4111
秋の有田陶磁器祭り	毎年11月	有田町内各所	有田観光協会 0955-43-2121
有田雛のやきものまつり	毎年2月・3月	有田町内各所・有田館・アリタセラ	有田観光協会 0955-43-2121

《佐賀県》

しらいしやき  
【白石焼】



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

佐賀県みやき町皿山の周辺の窯元で、焼成されるやきもの。有田焼を「西目の皿山」と呼ぶのに対し、白石焼を「東目の皿山」と呼びその名を馳せた。白石焼は地元産の陶石から生まれる素朴さと温もりがあるのが特徴です。

《長崎県》

は さ み や き  
【波佐見焼】



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

慶長4年（1599年）頃から、波佐見町村木の畑ノ原、古皿屋、山似田の3か所に連房式階段状登窯を築き、やきものづくりを始めました。これが波佐見焼の始まりで、今から約400年前のことでした。

17世紀には美しい青磁せいじが焼かれましたが、18世紀以降は庶民の身近な暮らしに役立つことを誇りとして、手頃な価格の良質な「やきもの」をつくり続けてきました。

そして、現代の暮らしと食文化に調和した波佐見焼は、様々なニーズに応じた一般家庭用食器から伝統的で華麗な工芸品、モダンなデザインのギフト用品まで幅広く生産されています。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
中尾山 桜陶祭	毎年4月最初の土日	波佐見町陶郷中尾山一帯	0956-85-2111（波佐見町・商工振興課）
波佐見陶器まつり	4月29日～5月5日	波佐見町やきもの公園一帯	

《長崎県》

みかわちやき  
【三川内焼】



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

三川内焼は、「繊細優美」の一言で表現され、慶長3年（1598年）の開窯以来、朝廷や将軍家への献上品が多く、日用品から室内装飾品にいたるまで常に高級感がある「やきもの」づくりに専念してきました。

「透彫り<sup>すかし</sup>」の技法や、松の木の下で無心に蝶とたわむれる唐子たちを描いた図柄「唐子絵（からこえ）」などは独自のものです。

現在作られている製品は高級食器類が中心で、その他香炉、花瓶などもあり、海外にもファンが多くいます。昭和53年、国の伝統的工芸品に指定されました。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
はまぜん祭り	5月1日 ～5日	三川内山一帯	0956-30-8311（三川内陶磁器工業協同組合）
みかわち陶器市	10月～ 11月頃	三川内焼伝統産業会館前 特設野外会場	<a href="http://www.mikawachi-utsuwa.net/">http://www.mikawachi-utsuwa.net/</a>

《熊本県》

あまくさとうじき  
【天草陶磁器】



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

天草陶磁器は、日本一といわれる良質な天草陶石を使って焼かれる磁器と、地元の陶土を使って焼かれる陶器です。

天草は、天領（幕府の直轄地）であったため、藩の御用窯的なものではなく、村（87村）ごとに庄屋がいて、それぞれ陶石を売ったり、焼物を焼いたりして、振興をはかっていました。

磁器は約340年前に、陶器は約250年前に焼き始められました。純度の高い良質な天草陶石を使った透明感のある磁器や、性質の異なる釉薬の二重掛けの技法を用いた海鼠釉なまこゆうや黒釉こくゆうの個性的な陶器が多く作られています。

《熊本県》

しょうだいやき  
【小代焼】



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

小代焼は、熊本県北部で約 400 年前から焼き続けられている陶器です。寛永 9 年（1632）に細川家転封に際し、豊前より移った牝小路源七と葛城八左衛門が小代山麓しょうだいさんに登り窯を開いたのが始まりといわれています。肥後藩の御用窯として茶道の道具などが焼かれたほか、生活雑器も多く作られました。

鉄分を多く含み小石粒が多い小代粘土に藁灰・木灰・長石などを釉薬ゆうやくとして用い、陶器としては高温で焼成されます。味わい深い地釉じくすりに流し掛けの上釉うわくすりがかかる、素朴で力強い作風に特徴があります。

《熊本県》

こうだやき  
【高田焼】



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

高田焼は、1632年（江戸時代初期）に現在の八代市で焼き始められたといわれています。細川家が豊前から肥後に国替えとなった際、上野喜蔵が豊前国上野から八代郡高田村に移り築窯しました。別名八代焼ともいわれます。

ミガキをかけた素地に文様を刻み、白い陶土を埋め込む象嵌という技法が使われています。透明釉をかけて焼成し、胎土に含まれた鉄分で碧色に発色しています。上品な色合いと端正な形状が特徴です。



《大分県》

おんたやき  
【小鹿田焼】



あめゆうながしか もんふたつきつぽ  
飴釉流掛け文蓋付壺

大分県立美術館所蔵

【陶磁器の魅力はこんなところ！】

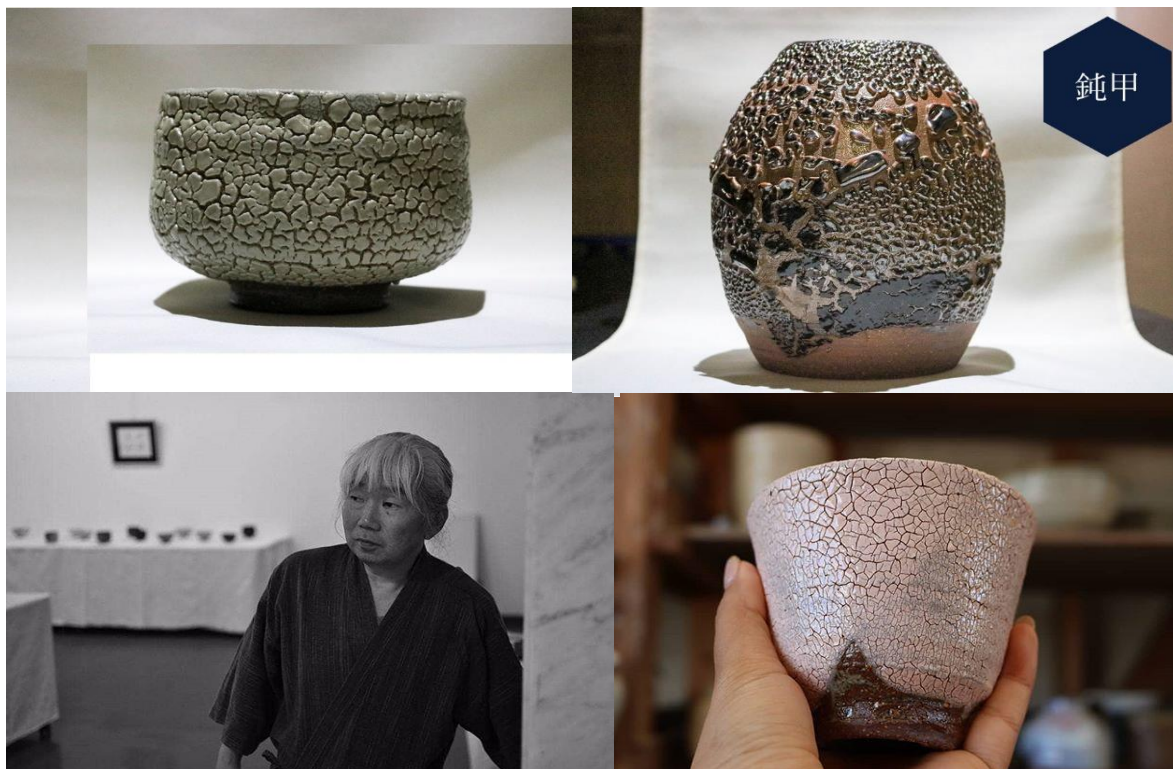
日田市源栄(もとえ)町皿山で、江戸時代中期から作られ続けている日常雑器の陶器です。地元皿山の土を、川の水を動力とする昔ながらの唐臼(からうす)で砕き、陶土作りから成形、加飾まですべて機械を使わず、手仕事で行い、登り窯で焼成します。1931年来窯した民芸の提唱者・柳宗悦の紹介により、開窯当時の陶技を継承する貴重な窯の存在が、広く全国に知られることになりました。1995年国の重要無形文化財に指定され、現在10件の窯元がその伝承の技術を継承しています。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
小鹿田焼民陶祭	令和2年10月 10日(土)/11 日(日) 9:00-17:00	大分県日田市 源栄町(大字 鶴河内)皿山	小鹿田焼事務局 (小鹿田焼陶芸館) TEL:0973-29-2020

《宮崎県》

こまつばらやき  
【小松原焼】



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

小松原窯は400年以上の歴史があり、15代目朴平意氏は宮崎県伝統工芸士として認定されています。

朴家伝統の「蛇蝸」<sup>だかつ</sup>「叩き」<sup>どんこ</sup>「鮫肌」「鈍甲」などの技法があり、研究された釉薬（ゆうやく）の使い方に特徴があります。これらは、茶碗の中でも歴史的価値の高い高麗茶碗の特徴です。井戸茶碗を得意としており、薪窯による穴窯自然釉にも力を入れています。

小松原窯の作品は、力強く、重厚なため、花器・つぼ類から日常生活用品に至るまで、さまざまな用途に利用されています。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
窯元見学	随時（お問い合わせください）	宮崎県宮崎市月見ヶ丘 6丁目7-14	0985-54-2335 070-5532-9532

《宮崎県》

ひとつばやきかまもと  
【一ツ葉焼窯元】



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

愛知県瀬戸市での15年陶芸の勉強の後、昭和53年に宮崎県一ツ葉に窯を開きました。色の異なる粘土を組み合わせて絵柄、模様を作る、金太郎飴のような「練り込み」という技法を使って作陶しています。この技法は裏も表も模様がつながっていることから一つのことを「貫く」に通じているためお祝い事や人生の節目の記念品に好まれています。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
第28回みやざきの窯元祭 in 綾	2020年 5月1日～5日	綾 酒泉の杜	(株)MRT アド 0985 (22) 3333
ひむかの国の窯元祭	2020年7月	宮崎空港 オアシス広場	一ツ葉焼窯元 0985 (75) 1588
一ツ葉焼窯元祭	2020年12月	一ツ葉焼窯元	一ツ葉焼窯元 0985 (75) 1588

《宮崎県》

しょうようがま  
【照葉窯】



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

照葉窯では木立や草文など一点一点彫りして作成する象嵌<sup>そうがん</sup>や掻き落とし<sup>かおと</sup>技法の作品を中心に作陶しております。

1988年に陶芸をはじめ、2000年に独立して現在に至っております。その間にこの象嵌<sup>そうがん</sup>技法で各賞も頂きました。2007年に東国原知事より「みやざきの匠」の表彰も受けました。是非一度照葉窯の作品を手にとってご覧下さい。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
第28回みやざきの窯元祭 in 綾	令和2年5月1～6日	綾町 酒泉の杜	(株)MRTアド 0985-22-3333
天草大陶磁器展	10月31日 ～11月4日	天草市民センター、 体育館	天草市役所

照葉窯：宮崎県都城市下長飯町693-1 TEL：0986-39-6922

《宮崎県》

みまたやきしろくがま  
【三股焼紫麓窯

(しんもえだけ新燃岳火山灰使用・しんきんもえゆう新金燃釉陶



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

宮崎県三股町の三股焼紫麓窯では 2011 年に噴火した新燃岳の火山灰を使用し陶器を制作している、従来は火山灰を釉薬ゆうやくに用いて焼成しても黒か銀黒の表現しか出来なかったが、6 年かけ金と結晶釉の焼成に成功した。

新燃岳に続き桜島と阿蘇の火山灰でも制作している。

それぞれの窯元が独自の技法で作陶し、色々な焼き物が楽しめる。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
第28回みやざきの窯元祭 in綾	5月1日～5日	綾町蔵元 綾 酒泉 の杜	((株) MRTアド 0985-22-3333
みまたモノづくりフェア	6月12日～ 14日	三股町武道体育館	三股町役場企画商工課 0986-52-9085
ひむかの国の 窯元祭	7月末(日にち 未定)	宮崎ブーゲンビリア 空港オアシス広場	宮崎空港ビル

紫麓窯 TEL: 0986-52-3603

《鹿児島県》

さつまやき  
【薩摩焼】



白薩摩



黒薩摩

【陶磁器の魅力はこんなところ！】

薩摩焼の発祥は、今から約 420 年前、朝鮮出兵に参加した島津義弘が多くの陶工を連れ帰ったことが始まりとされています。

薩摩焼は、「白もん」と呼ばれ象牙色の肌そうげに細かい貫入（ひび）が入り、繊細華麗な錦手や金襴手の上絵、精巧な透彫がほどこされた白薩摩と「黒もん」と言われる庶民のための生活の器として愛された漆黒の光沢をもち、素朴で剛健な温もりを感じさせる黒薩摩の2種類に大きく分類されます。

さらに、現代の薩摩焼では、白薩摩、黒薩摩といった伝統的な焼物の他にも、400年の伝統を活かしつつ新たな感性と技が創造する多種多様な焼物が生まれています。

☆イベントスケジュール☆

イベント名	日時	場所	お問い合わせ先
第48回鹿児島陶芸展 (さつま春陶マルシェ)	令和2年4月3日(金) ~12日(日) ※6日は休館	かごしま県民交流センター	南日本新聞社 TEL:099-813-5053
第31回薩摩焼フェスタ	令和2年12月1日(火) ~6日(日)	かごしま県民交流センター	鹿児島県薩摩焼協同組合 TEL:099-294-9039

《沖縄県》

つぼ や やき  
【壺屋焼】



そうがんにろさしめんとりだちびん  
象嵌色差面取抱瓶

作者不詳

19世紀

高 10cm

半月部分の径 15.5cm

口径 2.7cm

【陶磁器の魅力はこんなところ！】

抱瓶は、泡盛を入れて持ち運ぶために使用されたといわれる琉球独自の酒器です。三日月形は、腰にフィットする合理的な形でありつつ、美しさも兼ね備えています。本作は 19 世紀頃に壺屋で製作された沖縄県指定有形文化財の逸品です。

壺屋は 1682 年に 3 つの窯を統合して現在的那覇市壺屋に生まれた壺場です。琉球王国時代から現代まで、中心的なやきものの産地として栄えています。鮮やかな「赤絵」や、生き生きとした魚文を描く「線彫<sup>せんぼり</sup>」などの技法が知られており、様々な技法で豊かなやきものが生み出されました。本作の表面は餡釉<sup>あめゆう</sup>と緑釉<sup>りょくゆう</sup>が点打ちされる面と、象嵌で幾何学模様が表された面が交互に配られています。精緻な技術と壺屋窯の特徴である暖かみのある風合いが魅力の美しいやきものです。